

縮減社会を生き抜き、あきたの未来を創造する新たな農業高校成長モデルの研究開発 ～地域定住人材の育成を目指したKANANOスタイル農業高校改革プロジェクト～

【研究開発の背景】

秋田県は超少子高齢、人口減少県であり、世界をはじめ日本の最重要課題のフロントランナーでもある。地域との協働体制による地域再生・農業改革を5学科で体現するプログラムの構築が、研究開発の背景である。

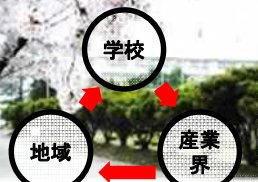
◆2020年全国平均高齢化率29%⇒秋田県38% ◆2040年秋田県の高齢化率予測50%⇒「2040年問題」

【目指す生徒像】

縮減社会に対応した「あきた型農業高校成長モデル」の開発を通じて農業関連産業を変革することができる人材の育成。あきたの未来を創造し、持続可能な地域社会を支えるソーシャルキャピタル(協調行動が作りだす社会関係資本)の構築や、Society 5.0に対応できる社会の実現に向けて、自らの意思で地域マネジメントに貢献する高度職業人の育成。

- 1 金農コンソーシアムの構築(8つの関係機関で構成)
 - ①秋田市 ②湯上市 ③大潟村 ④秋田県産業教育振興会
 - ⑤秋田大学 ⑥秋田県立大学 ⑦秋田県教育委員会 ⑧本校
- 2 金農コンソーシアムへの支援・配置
 - ①カリキュラム開発等専門家(秋田県農業研修センター)
 - ②地域協働学習実施支援員(公社法人秋田県農業公社)
- 3 研究推進に向けた校内推進体制
 - ①研究開発推進委員 ②教育課程委員会 ③農業部会
- 4 学校設定科目「**地域創生論**」の開設と公開講座

ひと・まち・協働による
金農コンソーシアム



「運営指導委員会」による事業への指導助言



第1回 運営指導委員会
令和3年5月11日(火)



地域創生論 鳥根大学 中村侑詞先生
令和3年11月17日(水)



地域とともにある学校づくり推進フォーラム
令和3年11月19日(金) 石巻市

「KPI」による金農オリジナル学習評価法(可視化された指導と評価の一体化)
高校魅力化評価、ルーブリック、金農版GKH(Gross Kanano Happiness)等により評価・検証

身に付けたい
資質能力

- ①改革する力 ②思考力 ③人間関係構築力 ④実践力
⑤創造力・将来設計力 ⑥先見力 ⑦マネジメント力 ⑧多文化協働力

カリキュラム・マネジメント

令和3年度の取組内容

成果と課題・生徒の変容

カリキュラム1年次
基礎 (In About)

カリキュラム2年次
発展 (About For)

到達目標「地域理解」
関係科目「農業と環境」「農業情報処理」「総合実習」他

到達目標「課題発見・解決」
関係科目「課題研究」「地域創生論(学校設定科目)」他



現場見学(秋田港)

東京大学集中講義

商品化の実践

1 「グローバルスタディ」領域
GAP教育,グローバル農業,SDGS等

2 「第4次産業・農業革命」領域
スマート農業実践,大学等との連携

3 「ソーシャルスキルアップ」領域
長期インターン,6次産業化実践等

4 「地域一体型農業コミュニティ形成」領域
農業交流活動,環境,地域コミュニティ活動

【各学科における取組内容】※各学科の取組から抜粋
生物資源科:長期インターン、県立大AIUスマート農業実践
環境土木科:現場視察、ドローン講習、県立大連携研究
造園緑地科:長期インターン、樹木医研修、現場視察
集中講義(国際教養大、東京大学 他)
生活科学科:梨商品化、ハーブ活用研修、着付け講座

【取組状況(実績)】※目標設定シートより抜粋
○産業界や大学,研究機関と連携した事業所数: **20箇所**
○講師を招聘し、講義や講演等を実施した回数: **16人**
○長期インターンシップに参加した生徒の数: **13人**
○就職希望者の中で県内就職した生徒の割合: **88%**

【成果と課題】

- 今年の目標「地域課題の発見・解決」に関しては、**78%**の生徒が地域の問題や課題に関わり行動したいと認識している。
- 91%**の生徒が、現在の生活に豊かさや幸福感を感じている。
- ▲情報発信による広報活動の推進(様々な情報管理の一元化)
- ▲事業終了後の自走に向けた校内外体制システム化の構築

成長モデル研究領域

